

我ら、 レイボウ族

【第13回】

変容と誠実と感謝

古代フラダンサー

水野みさを

logo design : misao

月が最も地球に近くなるスーパームーン、お釈迦様の誕生日でもあった4/8、日本のいくつかの都市にコロナ対策「緊急事態宣言」が発令された。スーパーピンクムーンとも呼ばれる特別な満月。人間界はこんなに変なのに、天界は静寂だ。鮮明な満月にうっとりしていると、ハワイ島で見たいくつかの満月シーンが回想連写で現れた。大海原から突如出現した真オレンジ色のどでかいスーパームーンの頭。目撃した瞬間、何が現れたのか全くわからないほど巨大だった。キラウエア火山に溶岩が流れる様を見に行った晩も、溶岩が海になだれ落ちる真上には凜とした満月がずっと見おろしていた。

手相家をしている友人じゃんぐるまま(奈花川もも)のブログによれば、「このスーパーピンクムーンは愛と調和と美をもたらすてんびん座の満月で、アセダントが蟹座=家。ここはしっかりと自分の居場所にフォーカスして」だという。だから(コロナ対策もあるけど)、今は、しっかりと家に居て、心の充足感に向かえ、という時期なのだな、と納得。

今年で12回目となるはずだった4月の行事、明治神宮いのちの森(森と大地に感謝して奉納)も今年はなくなってしまったし、緊急事態宣言が出る前からいろいろ中止や延期が重なり翻弄されたが、マイペースも整いつつある。家にいて、自分にとって何が

(10) No.217 / 2020年5・6月号

必要な変化なのかを感じる余裕もできそう。

TVをつければ、毎日コロナのニュース。街を歩けば、コロナ臨時休業のお店あり、創作和食店を経営する知人夫婦は、予約全キャンセルで、家賃や従業員の給料を工面する為に金融公庫に申し込みに行ったけどものすごく時間がかかりそう、お店をやめざるをえないかもしれないと言っていた。マスクがない、トイレトペーパーがなくなるというデマ、買い占めなど、ぎすぎすした喪失感が漂っているのは、社会の「うつ」病みたいだ。昨日まであたりまえのようにあった小さな幸福がだんだんと消えていくのは、戦争時代もこうだったのかしら。この喪失感、東日本大震災311、リーマンショック、911テロが起きた直後の社会の喪失感を思い出させる。911の時、私はサンフランシスコ在住だった。自分なりにひよらずに生きてきて初めてまともな職、コミュニティカレッジで古代フラの非常勤講師として働き始めた2001。911テロ前のアメリカは移民に寛大だった。特に、花のサンフランシスコが生まれた土地柄、多種多様な文化は平等に扱われ、ミュージシャンやアーティストは学校で音楽やアートを教える仕事を、生活基盤も得たうえで創作活動ができた。それが、911テロ後、一変してしまった。当時の大統領ブッシュが湾岸戦争を起こしたことにより、芸術への政府助成金は軍事費へと回され、私は翌年リストラされたし、学校外で教え始めたダンススタジオの生徒さんも大半は新社会人だったのでリストラされ、十数名いた生徒さんが1~3人へと激減した。続けるか否か毎回脂汗出しながらクラスを続けた。リストラは市のあちこちで起こり、学校のパートお掃除もリストラされてるから廊下は暗っぽくなり、トイレはなんとなく匂っていた。なんだか社会全体が「うつ」に怯えていた。不条理。

コロナとカミュの『ペスト』

家にいると、TVを見る時間がふえた。コロナ感染のご時世だからと、NHK教育がアルベール・カミュの『ペスト』を解説する番組を再放送していた。カミュは『異邦人』で1947年にノーベル文学賞を受賞したフランス作家だが、アルジェリア生れだという。『ペスト』は、アルジェリアの港町オランにペストが蔓延した為、町が隔離され、閉鎖孤立した環境下での人間心理模様を描いている。深読みすると、当時のナチスへの反感。レジスタンス、理念の為の戦争で人が死ぬことに慣れていってしまう恐ろしさを描いているそうなのだが、この番組を観ている最中に頭をよぎったことは、キャプテン・クックが1778年に初めてハワイを訪れた時、麻疹、インフルエンザや梅毒などの伝染病を全く免疫のないハワイアンに残し、キャプテン・クックが訪れる前は50万あった人口が100年たたぬうちに5万人以下、つまり1/10になってしまったことだった。さとうきび畑などでの人手不足を補う為にアジアやメキシコ、ポル

トガルから移民が募られ、1868以来、日本からも移民が始まった。

こうしてみると、大きな危機は社会に大きな変化・変容をもたらすようだ。コロナ感染予防の為に人と人との間に距離を保つ(ソーシャル・ディスタンス)を試み、オンライン・コミュニケーションがグッと増えた。この数日でざっと耳にしたのは、テレワーク、オンライン診療、オンライン会議、オンラインWS。あ、Love & Peace 50周年オンライン・パレード交流会への参加お誘いメールも頂いた。今や、パレードまでオンライで……。But、私は電磁波に弱いので、オンラインなんかになかなか乗れない。便利なツールほど後で問題起こすんじゃないかと斜に構えてしまう自分もいて。声のトーンや瞳、その人が発しているヴァイブなど、言葉以外の生身のコミュニケーションで大事なんだ。

2020年12月22日、200年間続く水瓶座の時代に突入するらしい。

コロナ感染による人類の危機、先進国の工場や交通が多くストップしている今、地球大気中CO2濃度が半減している結果が出た。専門家によれば、コロナ終息に約1年半はかかるそうだが、この危機は人々のライフスタイル、経済、価値観を大きく変容させるかもしれない。アメリカのトランプ出現により世界に断絶があふれたが、コロナ危機に対峙する為に、地球人としての団結がボーダーレスにつながっていきそうです。だって、もしかしたらコロナは序の口で、これからも目に見えない新たなものが出てくるかもしれない。気候変動で海水が上昇し、南極・北極の氷がとけ、何万年と眠っていたウイルスが蘇り……は、SF的かな。でもわからないよ。

カミュは『ペスト』のラストでこう結んでいる。「収束を迎え、門が開かれた時、町は祝福に包まれた。同胞たちへ祝福と感謝の言葉を向けよう……しかし、ペスト菌は決して死ぬことはない。いずれペストは、人間たちを試す為、再び神によって幸福な町に送りこまれるだろう」と。

この度、コロナに携わる医療従事の方々、ほんとに頭が下がります。命を落された皆様のご冥福をお祈り申し上げます。世界が団結して、この見えないウイルスを終息できますことを！
まずは、誠実に、せっせと手洗いを続けまひよ♪
皆さま、ご自愛ください♡ 愛と感謝



↑撮影：村岡智絵